

平成20年度常任委員会視察報告

総務委員会視察報告書

総務委員会 副委員長 坂原シモ

平成20年5月7日～8日

栃木県那須町、福島県川俣町、岩手県奥州市

◎栃木県那須町

道の駅「東山道伊王野」ふるさと物産センターの視察を行いました。施設の設置は、県と町、運営は住民の手で行われている公設民営の施設です。町が農協に運営を断られ、地元にあつた「里づくり委員会」に働きかけ、出資金を募集し926戸の地域の内、384戸が賛同し850万円の資本金で設立し、平成12年10月より道の駅として開業しています。平成18年度の総売上は3億4000万円余りで、町に使用料を払っても2400万円の純利益であります。地元雇用44人で働いています。物産センター



水車小屋

の広い敷地には新鮮で格安な農産物が工夫を凝らし陳列され、消費者の意欲をそそるものがありました。食堂の脇には大きな水車小屋があり、地元産のそばをひき、3人の職人で打っていました。

道の駅で売られている農産物は、技術員が月1回の指導を行い責任の持てる立派な品物ばかり売っているのかと感じました。平成19年度には約4億円のお金が農産物、加工品、賃金として地域に還元されていることは、経済的にも地域の活性化にも役立っています。



道の駅 直売所

◎福島県川俣町
定住化促進総合計画について、少子化対策、育児環境向上事業についての視察を行いました。新婚世帯借家の場合月額1万円の補助を3年間、U・Iターン者定住奨励金も1万円を3年間の補助などを行っているとの説明をいただきました。

◎岩手県奥州市

平成18年に5市町村が合併した人口13万人の岩手県第2の都市です。子育てナンバーワンプランについて「～未来に輝く奥州つ子を地域全体で育むまち～」を基本理念として「次世代育成支援行動計画」を基本に、子育てから、教育、母子保健、男女共同参画、企業環境支援、ハード整備に至る、家庭、地域、学校、

産業建設委員会

視察報告

産業建設委員長 佐藤正夫

平成20年5月13日～16日
島根県安来市、山口県萩市

◎島根県安来市

安来市の、J・R駅併設の「観光交流プラザ」（観光振興、中心商店街活性化）と、萩市の「萩まちじゅう博物館構想」を視察した。

安来市は工業は伸びているが、商業は松江と米子に挟まれ苦戦している。観光



JR安来駅と併設の観光交流プラザ

では安来節を中心に、東京・大阪等でイベントを開き誘客を進めており、安来節の会は全国で七十支部ある。安来駅の改築に併せて、郷土文化・伝統、歴史、観光の情報発信拠点と、行政のサテライト基地として、駅併設の観光交流プラザを今年オープンした。

駅部分以外の施設は市の運営のため、J・Rとの調整の必要が無く自由に使える。行政・観光案内コーナーは年中無休、市の嘱託職員三名で業務をする。特産品販売コーナー・多目的交流ゾーンには観光宣伝ポスターも多く張り出してある。二階にギャラリーがあり作品展示・講演会・各種集会・サークル活動等多目的に利用しており、飯山の新幹線駅でも大いに参考になると思いました。

◎山口県萩市

萩市の「萩まちじゅう博物館構想」は、江戸時代の地図が今でも使える「まち」全体を博物館ととらえ、屋根が無い博物館にする構想。萩は幕末から明治の日本を代表する貴重な文化財や城下町を後世に残そうと保存に取り組んでおり、市の関係部署とNPOが中心に活動している。博物館や維新の志士の旧宅等の案内もNPOのスタッフが当たる。萩市では文化財指定を受けていない貴重な遺産について、ワンコイントラスト（100円信託）運動を進めている。信託箱が置かれていて、4年間で2300万円集まり施設の補修に当てているとのこと。なるほどと感じました。

景観には厳しく、萩にふさわしく無い看板等は、撤去・塗りなおさせる。観光客にきれいな町並みと言うことで、街中、海岸の清掃活動をしている。観光客も大幅に減ったとはいえ年間150万人が訪れており、住民の観光客に対する接し方はおもてなしの姿勢が強く感じられました。歴



萩の観光スポットを結ぶ循環バス

史的資源の差があるので萩と同じことは出来ないが、訪れた人に地域挙げて暖かく接する取り組みが大切な資源と感じました。

社会文教委員会

視察報告

社会文教委員長 水野晴光

平成20年7月7日～9日
福島県二本松市、岩手県花巻市、西和賀町

◎福島県二本松市

二本松市は平成17年12月、二本松市、安達町、岩代町、東和町が合併。人口6万3千人余。「子育て支援課」の説明を受ける。

1. 結婚推進事業
推進委員は一般46名、市議会議員29名、農業委員35名を委嘱。
希望者女性9名、男性40名の登録がある。
2. 出産祝金事業
第一子から一人10万円支給。（現金5万円、地元商品券5万円）
3. 子供を産み育てやすいまちづくり事業
就学前の乳幼児医療費と、小学生入院医療費の助成。
4. 温泉保養健康増進事業
65歳以上の者に利用券年5000円交付。
5. 巡回福祉車両運行事業
ボランティアによる車両での高齢者、障害者の電話予約による外出支援サービス。

◎岩手県花巻市

花巻市は平成18年1月、花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が合併。人口15万5千人余。
役重真喜子氏（地域振興課長）の話を聞く
平成3年、東京農林省から東和町へ引越（自然環境の中での生活に魅せられて



花巻市役所にて

来た時はプライバシーが守られずつらい思いをしたが、それにより地域のつながりが保たれることが理解できてきた。自然があっても遊ぶ子供を見かけない、子供の友達の家まで10kmもあり、ジレンマも感じるとの事。

地域振興策
小さな役所「地域センター」を開設、小学校単位26ヶ所に整備、活動費として均等割、面積割、戸数割等で配分300万、1900万円を支給し合計2億円を投入、使途は地域一任で行っている。

◎岩手県西和賀町

西和賀町は平成17年1月湯田町と沢内村が合併。人口7400人。



沢内病院

旧沢内村の医療の取組みについて
旧沢内村は乳幼児の死亡率が日本一高い村であったが、この状況を克服すべく国に先駆け乳幼児や老人医療費を無料化し、乳幼児死亡率ゼロという画期的な記録を達成した。又、全村民の生命を守るため、健康増進、予防対策、検診、治療、社会復帰まで一貫した包括医療体制を築き上げた。

3市町それぞれ子育て支援、地域振興、医療対策等がんばっている姿を視察することが出来ました。信念を持って地域医療にあたつた旧沢内村の取組については学ぶべき点が多いことを感じました。